

序 文

(独)水産総合研究センター中央水産研究所では、水産物の安定供給の確保や水産業の健全な発展に貢献するため、平成23年4月に第三期中期計画の達成に向けた5つの重点分野に研究課題を定め、さらに水研センターの共通基盤研究所として組織再編を行い、経営経済、水産資源、海洋環境、水産物の安全安心、水産遺伝子特性等に係わる研究を実施しております。また、水産総合研究センターの他の研究所や地域研究機関及び漁業者の皆様と連携して、昨年3月11日に発生した東日本大震災からの復興、再生に係わる研究開発にも取り組んでおります。



このような研究及び取り組みで得た成果は通常、論文や学会・シンポジウム等を通して公表しておりますが、その内容がなかなか一般の方々の目に触れにくいのが現実です。そこで、専門家以外の一般の方々にも研究開発の成果を知っていただくことを目的に、成果の内容を解りやすく解説した「研究のうごき」を平成15年度から発刊してきました。今号は第10号になります。

この「研究のうごき」は当所の研究職員の主要な研究課題について、研究開発の背景と目的、得られた成果及びその波及効果を1ページ内にとりまとめ、冊子として編集したものです。これは研究論文とは異なり、一見して即時に理解していただくことを目指して作成した成果集です。

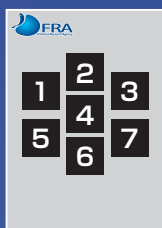
当所は、所の運営方針として「情報発信の強化」を掲げております。このために、ホームページの充実や調査船を含めた一般公開の強化、パネル展示や解説資料の配付、研修会や講習会の開催等に積極的に取り組んでいるところです。特に、一般の皆様を含む多くの方々に研究成果や研究情報を広く発信することが研究活動への理解を得るため、また水産の重要性を理解してもらうために極めて重要と考えております。

本冊子により当所の研究開発活動をご理解いただき、さらには読者のご指導、ご鞭撻を賜ることが出来れば幸いです。なお、本冊子の成果は当所のホームページ(<http://nrifs.fra.affrc.go.jp/>)にも掲載しておりますので、第1号からの成果も含めてご一読頂ければ幸いです。

平成24年9月

独立行政法人 水産総合研究センター

中央水産研究所 所長 馬場 徳寿



表紙写真(提供)：1. 貝毒原因プランクトン *Dinophysis infundibulus* (鈴木敏之)；
2. 栃木県の溪流(玉置泰司)；3. ヨーロッパザラボヤ(本文参照)；4. サバの群泳
(高橋正知 資源管理研究センター)；5. ニギス類(本文参照)；6. 愛媛県の魚類養
殖場(高橋義文)；7. 冷凍キハダマグロの水揚(木宮 隆)